Q1709家庭科__生き方 と F1_所属 のクロス表

F1_所属 の %

		F1_所属				
		連合新潟	連合兵庫	連合徳島	連合鹿児島	全体
Q1709家庭科__生き方	思わない	30.1%	33.1%	30.1%	25.2%	29.5%
	あまり思わない	59.3%	56.8%	54.8%	57.3%	57.4%
	やや思う	8.5%	8.4%	12.6%	14.6%	10.8%
	そう思う	2.2%	1.6%	2.5%	2.8%	2.3%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

χ2乗＝42.093, df=9, p＜.001

Q1710家庭科__家庭経済 と F1_所属 のクロス表

F1_所属 の %

		F1_所属				
		連合新潟	連合兵庫	連合徳島	連合鹿児島	全体
Q1710家庭科__家庭経済	思わない	29.1%	30.7%	26.2%	23.0%	27.4%
	あまり思わない	54.7%	53.6%	56.0%	54.4%	54.6%
	やや思う	13.5%	14.2%	14.6%	19.3%	15.3%
	そう思う	2.7%	1.5%	3.2%	3.3%	2.7%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

χ2乗＝33.337, df=9, p＜.001

問 18.「家庭科」以外でも結構です。社会人になる前に、次のことを学んだり聞いたりしたことはありますか。

Q1801共働き世帯が過半数 と F1_所属 のクロス表

F1_所属 の %

		F1_所属				全体
		連合新潟	連合兵庫	連合徳島	連合鹿児島	
Q1801共働き世帯が過半数	全く該当しない	11.5%	14.4%	13.4%	11.9%	12.6%
	あまり該当せず	34.0%	36.9%	28.4%	35.2%	33.9%
	やや該当	41.9%	37.8%	44.9%	40.8%	41.2%
	とても該当	12.6%	11.0%	13.3%	12.2%	12.3%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

χ2乗＝20.282, df=9, p＜.05

Q1802社会で活躍する女性 と F1_所属 のクロス表

F1_所属 の %

		F1_所属				全体
		連合新潟	連合兵庫	連合徳島	連合鹿児島	
Q1802社会で活躍する女性	全く該当しない	7.3%	10.9%	9.5%	9.2%	9.0%
	あまり該当せず	29.5%	25.8%	24.9%	29.6%	27.8%
	やや該当	44.7%	45.0%	48.1%	46.3%	45.8%
	とても該当	18.5%	18.3%	17.5%	14.8%	17.3%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

χ2乗＝20.119, df=9, p＜.05

Q1803女性も働いて家計の責任 と F1_所属 のクロス表

F1_所属 の %

		F1_所属				全体
		連合新潟	連合兵庫	連合徳島	連合鹿児島	
Q1803女性も働いて家計の責任	全く該当しない	14.5%	19.7%	15.7%	15.6%	16.2%
	あまり該当せず	53.1%	53.2%	46.1%	52.4%	51.7%
	やや該当	26.7%	23.4%	32.6%	26.5%	27.0%
	とても該当	5.7%	3.7%	5.6%	5.5%	5.2%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

χ2乗＝31.961, df=9, p＜.001

Q1804男性も家事・育児 と F1_所属 のクロス表

F1_所属 の %

		F1_所属				全体
		連合新潟	連合兵庫	連合徳島	連合鹿児島	
Q1804男性も家事・育児	全く該当しない	9.2%	13.3%	11.1%	10.6%	10.8%
	あまり該当せず	30.6%	32.9%	30.1%	34.1%	31.9%
	やや該当	46.0%	43.0%	48.6%	43.6%	45.2%
	とても該当	14.3%	10.8%	10.2%	11.7%	12.1%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

χ2乗＝23.548, df=9, p＜.01

「女性も働いて家計の責任をとるべき」という教育を受けた割合は 3 割と低い。1997 年に共働き世帯が片働き（専業主婦）世帯を上回ってから、ほぼ 20 年を経えようとしている。家庭科をはじめとする学校教育で教える内容が、急激な時代の変化に対応しきれていない可能性がある。

Q1805女性正社員の生涯所得 と F1_所属 のクロス表

F1_所属 の %

		F1_所属				
		連合新潟	連合兵庫	連合徳島	連合鹿児島	全体
Q1805女性正社員の生涯所得	全く該当しない	52.9%	51.9%	44.8%	44.8%	49.1%
	あまり該当せず	37.3%	39.4%	42.2%	44.8%	40.6%
	やや該当	7.4%	7.7%	9.9%	9.7%	8.5%
	とても該当	2.4%	1.0%	3.1%	.7%	1.8%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

χ2乗＝44.618, df=9, p＜.001

Q1806女性パートの生涯所得 と F1_所属 のクロス表

F1_所属 の %

		F1_所属				
		連合新潟	連合兵庫	連合徳島	連合鹿児島	全体
Q1806女性パートの生涯所得	全く該当しない	57.1%	55.3%	47.3%	47.7%	52.5%
	あまり該当せず	37.4%	39.5%	43.9%	44.8%	41.0%
	やや該当	4.5%	4.6%	6.6%	7.0%	5.5%
	とても該当	1.0%	.6%	2.2%	.5%	1.0%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

χ2乗＝47.678, df=9, p＜.001

女性の機会費用が大きいことは、平成 9 年「国民生活白書」(旧 経済企画庁)ですでに公表されている。学卒業の長い人生を、どのように仕事や地域社会と関わりながら生きていくのか。人生を設計するにあたり、きわめて重要なこの情報が、若い世代に伝わっていない。

※機会費用(opportunity cost):ある行動を選択することで失われる、他の選択肢を選んでいたら得られたであろう利益のこと。例えば、女性が正社員として定年まで就業した場合の生涯収入は 2.1 億円であるが、出産退職し、その後パートタイムで働くと生涯収入は 6000 万円である。パート復活というある行動を選択することで、正社員継続就業という他の選択肢を選んでいたら、得られたであろう利益(収入の差)である 1.6 億円が機会費用となる。

問 19. 最後に、お宅ではご夫妻の「財布の管理」はどのようにしていますか。一番近いものを 1 つ選んでください。

Q19財布管理 と F1_所属 のクロス表

F1_所属 の %

		F1_所属				
		連合新潟	連合兵庫	連合徳島	連合鹿児島	全体
Q19財布管理	小遣い型	49.1%	70.7%	60.2%	75.4%	62.8%
	生活費は妻	16.1%	12.2%	14.7%	9.4%	13.3%
	生活費は共通財	10.5%	4.7%	7.1%	5.5%	7.3%
	項目負担	19.6%	7.8%	14.1%	6.4%	12.6%
	その他	4.7%	4.6%	3.9%	3.3%	4.2%
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

χ2乗＝225.367, df=9, p＜.001

鹿児島、兵庫や徳島では「小遣い型」が 6-7 割を占めるが、新潟は 5 割に満たない。新潟では、「自分と妻がどの項目を負担するか決まっている」割合が 2 割、「生活費として必要な金額を妻に渡して残りは自分が管理」が 16%と続いている。

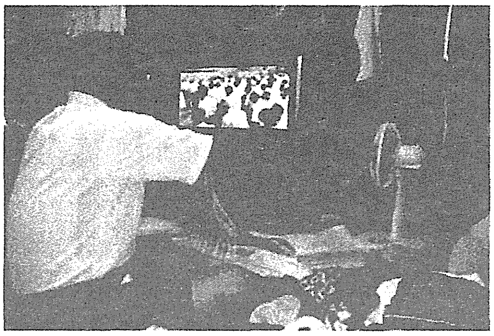
資料3:第3次　男女共同参画基本計画「男性と子どものための男女共同参画社会」をめざして～自治体の取り組み

1.　写真コンテスト

(1)　奈良県

男も家事(おもかじ)いっぱい推進事業、男性の家事フォトコンテスト

(出典)http://www.pref.nara.jp/15436.htm



洗濯

休日の朝

父:なっちゃん、次に干すもの、ちょ～だ～い。
娘:(集中)・・・これ、なっちゃんのかなぁ。
母:(撮影中)

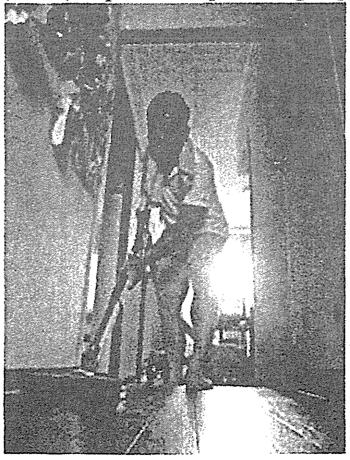
1日の終わりに・・・

夕食を終えた入浴前、洗濯物の山をたたんで片づけます。1日の締めくくり、ニュースを見ながらの一仕事。これを終えないと、明日は来ません。

(2)　滋賀県

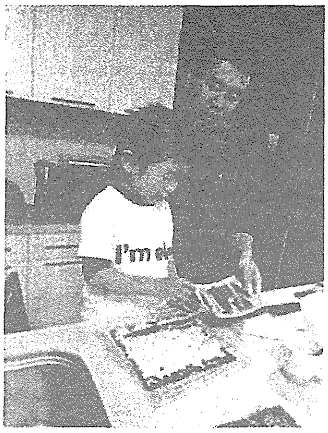
「男性の家事・育児参画フォトコンテスト」

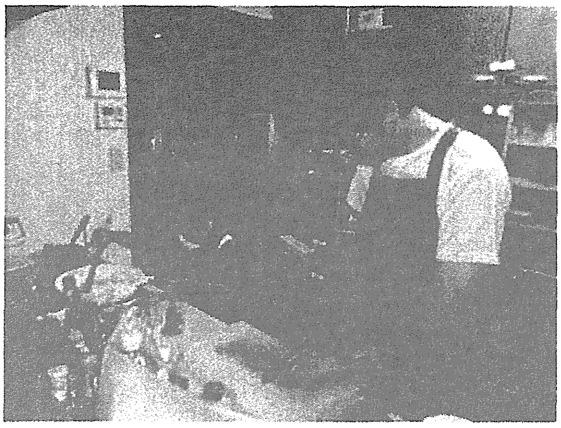
(出典)http://www.pref.shiga.lg.jp/c/danjo/photo.html



掃除：
家事に休みはなく、真夏日でも首にタオルを巻き、ズボンの裾をまくって汗を拭いながら掃除をしています。今回応募をするにあたって綺麗な背景を写そうと考えましたが、家事と育児で慌ただしく、とてもそんな余裕がなかったので、ありのままを写しました。共働きなので、すでに家事は習慣になっていて何でもこなしています。

洗濯
長男は子ども2人の4人家族。パパはホテルマン。午後4時からの勤務なので、朝ママが病院の仕事に出かけた後、5才と2才の食事。保育園の送り。掃除。洗たく。そして夜の食事の用意をして仕事に出かけるので、毎日大忙しです。家事は何でもおまかせ！です。





料理
仕事が休みの日の夕食作りはパパの担当。最近料理にはまりだした長男も一緒に、この日はサラダ巻きに挑戦。「めっちゃおいしいで〜」と自画自賛の長男。これからもパパを見習ってどんどん家事に参加してね！

お料理の好きなお父さん。私や子どもたちが喜ぶ顔を見ることで、ご飯をまた作ってあげようと思うみたい。仕事の勤務時間が不規則なのに休みでもおうちにいれば、お料理してくれます。
作るからには目指す味に近づけるため真剣です！娘には母ではなく、父の味を伝えようと料理指導もしてくれます。

新婚 8 ヶ月目の神谷家のメニューのご紹介です。本日のメニューはオムライス、ピーマンとエリンギの炒め物、鶏の塩焼きオニオンスープです。オムライスは写真では解りませんがカレー風味です。妻も喜んで食べてくれました。神谷家では、思いやりの気持ちを大切に楽しく家事をしています

(3) **大分県**

家事、育児を通じて固定的な性別役割分担意識の解消をめざす

家事男写真展・家事男川柳展

〔目的〕家事や育児に積極的な男性の生活の様子を写真や川柳を通して紹介することにより、男性の家事・育児参加を推進し、男女共同参画への意識啓発を行う。

〔開始時期〕写真展：平成23年度、川柳展：平成24年度

〔内容〕家事男・イクメンの写真、川柳を募集し、応募作品の表彰及び展示を行う。

父子で学ぶ男女共同参画Day

〔目的〕子育て世代の男性と子どもに家事体験を通して、固定的な性別役割分担意識の解消を行う。また、大学生と連携することで、若い世代に対する意識啓発も同時に行う。

〔開始時期〕平成23年度

〔内容〕大学生が子ども向け講座（男女共同参画に関するクイズなど）を企画し、実施する。家事体験として、ぞうきん縫い体験（23年度）・料理体験（24年度）を行う。対象は小学校低学年の子どもとその父親。23年度は国立大学法人大分大学の教育福祉科学部の学生、24年度は別府大学の食物栄養科学部の学生に協力を得た。

平成 23 年度『家事男（カジダン）写真展』の結果について

(出典)http://www.pref.oita.jp/soshiki/13040/kajidan-syasin.html

)「朝ごはんとお弁当づくり」

「愛ロンがけまでありがとう！！」「とりあえず、キャベツの千切り」

2. 料理教室

(1) **栃木県**

(出典)http://www.gender.go.jp/policy/men_danjo/municipality/pdf/tochigiken.pdf

多くの男性がやってみたいと考えてはいるが、実際には家庭で実践している男性はほとんどいない“料理”を中心に男

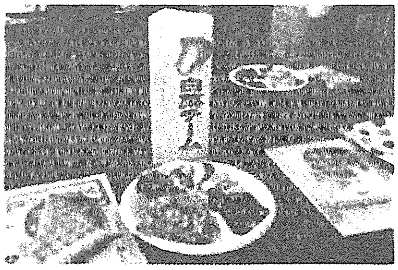
性の自立を促進する講座を実施することとした。

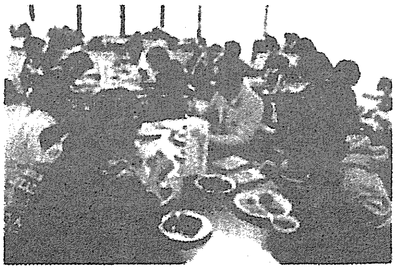
課題:受講者の平均年齢が両講座とも例年 60 歳を越えており、30 代・40 代が非常に少ない現状にあり、若い世代の取込みが今後の課題である。

(2) 青森県

(出典)http://www.gender.go.jp/policy/men_danjo/municipality/pdf/aomori.pdf

県委託事業「カジダン・イクメン養成講座」
～パパがつくる基本のクッキング＆
家族にモテるパパになる秘訣～
①料理実習:「パパがつくる基本のクッキング」
ふだん冷蔵庫にある食材を使って手軽でパパっとつくれる基本の料理を体験
②ランチセミナー:「家族にモテるパパになる秘訣」
カジダン・イクメンのロールモデルとなる講師をお招きし、実例、実体験を基にカジダン・イクメンのメリット、家族や仕事、地域社会への好影響を講演していただいた





(3) 福井県

誰でも回答できる家事検定を行い、希望者に料理検定を行っている。また、バランス良い夕食メニューを内容とする県が多いなか、テーマを限定した講座を開講している。県民のニーズを把握している強み。

④　家事チャレンジ講座

家事のやり方がわからないという男性を対象にした講座を実施しています。

日時	内容	参加者数
6月24日	「おうちカフェ講座」おいしいコーヒーの入れ方	３４名
7月8日	「魚のさばき方教室」魚のさばき方の基本	１６名
8月12日	「家事アラカルト教室」掃除、洗濯のプロの極意を学ぶ	１５０名
8月25日	「父子のアウトドア料理教室」アウトドア料理の基礎	１７名
9月9日	「サンドイッチの朝ごはん教室」	１９名
10月7日	「男の中華料理教室」	
	年１０回開催予定	

3.　その他

(1)　えひめイクメンカジメン研究所

主催:愛媛県法人会連合会

日本食研、四国しきしまパン、母恵夢(ポエム)愛媛県の受託事業として、愛媛県法人会連合会が少子化対策のために、男性の育児・家事参加を推進するイクメン事業の一環として運営している。

Factors affecting Japanese fathers' intention of doing household work

With the growing number of employed mothers in Japan (Statistics Bureau, each year), one of the significant concerns has been how to share household responsibility between husband and wife. The ratio of men who are in favor of allowing women to continue working after having a child is 46.6% (Cabinet Office, 2012) and 54.2% of the fathers with preschool children want to share household responsibility in 2009, which has increased by 5% since 2005 (Benesse Educational Research & Development Center, 2010). In reality, however, there is little evidence that fathers have been more involved in household work than before. Japanese father with a preschool child spends only 27 minutes per day in household work (Ministry of Internal Affairs and Communications, 2013). These facts clearly indicate a gap between attitudes and behavior regarding fathers' household work.

Theory of Reasoned Action (TRA), which was proposed by Fishbein and Ajzen in 1975, is one of behavior change theories and explains the gap between attitudes and behavior (Ajzen and Fishbein 1977; Hale, Householder, and Greene 2003). The features of TRA are to allocate "behavior intention" as a mediate variable between "attitudes" and "behavior," and to include other variables which affect "behavior intention," such as "outcome evaluation," "normative belief," and "motivation to comply."

Although TRA has been widely used dealing with diverse topics such as turnover (Lane, Prestholedt, and Mathews 1991), recycling behavior (Bagozzi and Dabholkar 1994; Higashi et al. 2009) and dieting (Lee, Damhosrt and Ogle 2009), it has never been applied to family research.

The objectives of this study are: (a) to test the validity of TRA when applied to Japanese fathers' household work; and (b) to investigate factors that strengthen the intention of doing household work.

Methods

Sample and Procedure

Data was collected through a postal mail survey in January, 2013. A questionnaire was sent to married men who were members of the Japanese Trade Union Confederation in Niigata Prefecture. We received responses from 1,043 participants as of February, 2013 (the response rate was 34.8 percent) and the data of 770 fathers were analyzed.

The major demographic characteristics of the sample are as follows; the average age is 41.2 (SD 7.34), the average number of children is 1.82 (SD .71), and about a half of the youngest child are preschool-aged. The majority are high-school graduates and two thirds had lived alone prior to marriage. About 40 percent live with their parent(s) at the time of survey.

Measures

Attitudes: "Attitudes" were assessed on cooking and cleaning separately, using 13 words that express favorable and unfavorable attitudes: e.g. "like," "fun," and "painful." Each response was quantified and the

sum was used as an attitudes score. (Chronbach's alpha .897).

Outcome evaluation: "Outcome evaluation" means beliefs about expected consequences of the behavior and was measured by 4 statements. An example is "If I bear some household responsibilities, my wife's burden will be reduced." The respondents valued how much they would agree to the statements. (Chronbach's alpha .766).

Normative belief: "Normative belief" measures how respondents' wives would evaluate respondents' involvement in household work by 6 statements. An example is, "If I bare some household responsibilities, my wife would express gratitude to me." (Chronbach's alpha .792).

Motivation to comply: "Motivation to comply" measures the degree to which someone wants to conform to others' expectations. The respondents rated how much they agreed to 4 statements. An example is "I want to behave to meet my wife's expectation." (Chronbach's alpha .746).

Household work ability: "Household work ability" measures skills and knowledge concerning household work. The respondents rated their ability by themselves regarding 5 statements. An example is, "I can cook a variety of recipes by myself." (Chronbach's alpha .706).

Gender ideology: "Gender ideology" measures a level of a traditional way of thinking about gender roles and assessed by 5 statements including "Husband is expected to work outside the home, while wife is expected to take on domestic duties." (Chronbach's alpha .719).

Intention to do household work: "Intention to do household work" asked how frequently respondents would like to do 8 kinds of household works: e.g. room cleaning, laundry, and grocery shopping. (Chronbach's alpha .804).

Participation in household work: "Participation in household work" asked respondents about actual frequency of doing the household work listed above. (Chronbach's alpha .793).

All the measures employed a self-report and 4-point Likert scale, and the higher sum indicates the higher level of measured concepts respectively.

Analyses

First, the means and standard deviations of key variables were calculated, and secondly, path model analysis was conducted with the Analysis of Moments Structure (AMOS).

Results

Descriptive Statistics of the variables in this study are shown in Table 1. Path analyses revealed the following results: (a) Every index (GFI= .982, AGFI= .945, RMSEA= .070) of this model fits the observed data well; (b) Regarding the original variables of TRA, "attitudes," "outcome evaluation," and "motivation to comply" had significantly positive relationships with "intension," but "normative belief" was not significant; and (c) Regarding additional factors, "household work ability" was positively related, while "gender ideology" was negatively related.

Implications

As TRA explains, our results indicate that human behaviors change based on their willingness. Specifically, the results show that the more Japanese fathers have skills and knowledge about household work, the stronger intention they have to do household work and that the strong intention would encourage fathers to do household work.

In order to increase Japanese fathers' involvement in household work, one of our suggestions is to develop educational programs for men focusing on household skills and knowledge. Since early 1990s, home economics has been coeducational at junior and senior high schools in Japan. It provides golden opportunities to enhance skills and knowledge about household work and family life.

As a conclusion, this study demonstrated applicability of TRA to Japanese fathers' household work. However, the data were cross-sectional and collected from only one area. A nationwide study is needed.

* This study was partly supported by the Grant of the Ministry of Health, Labor and Welfare in 2012.

References

Ajzen, I. & Fishbein, A. M. (1977). Attitude-behavior relations: a theoretical analysis and review of empirical research, *Psychological Bulletin*, 84(5), 888-918.

Bagozzi, R. & Dabholkar, P. (1994). Consumer recycling goals and their effect on decisions to recycle: A means-end chain analysis, *Psychology & Marketing*, 11(4), 313-340.

Benesse Educational Research & Development Center. (2010). Research on fathers with preschool children, 2009. Retrieved February 27, 2013 from http://benesse.jp/berd/data/dataclip/clip0012/index5.html (in Japanese).

Cabinet Office. (2012). Public Opinion Poll on a Gender-Equal society (October 2012). Retrieved February 26, 2013 from http://www8.cao.go.jp/survey/h24/h24-danjo/index.html.

Gender Equality Bureau, Cabinet Office, Government of Japan. (2012). Women and Men in Japan 2012. Retrieved February 26, 2013 from http://www.gender.go.jp/english_contents/category/pub/pamphlet/women-and-men12/index.html.

Hale, J. L., Householder, B. J. & Greene, K. L. (2003). The theory of reasoned action, In J.P. Dillard and M. Pfau (Eds.), *The Persuasion Handbook: Developments in Theory and Practice1*, 259-286, Thousand Oaks, CA: Sage.

Higashi, M., Saido, M., Nagano, M., Iwai, H., Kinoshita, H. & Yoshida, J. (2009). Research on the effect of recycling behavior, *Bulletin of the Psychological Research Center for Community Support, Otemon Gakuin University*, 6, 12-20 (in Japanese).

Lane, M. I., Prestholedt, P. H. & Mathews, R. C. (1991). Organizational factors associated with the beliefs of nurses that influence turnover, *Journal of Organizational Behavior*, 12, 641-649.

Lee, H., Damhosrt, M. L. & Ogle, J. P. (2009). Body satisfaction and attitude theory, *Family and Consumer Sciences Research Journal*, 37(4), 466-688.

Ministry of Internal Affairs and Communications. (2013). Survey on Time Use and Leisure Activities. Retrieved February 26, 2013 from http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&tclassID=000001041121&cycleCode=0&requestSender=search Table4.

Statistic Bureau. (each year). Labor Force Survey. Retrieved February 26, 2013 from http://www.stat.go.jp/english/data/roudou/index.htm.

Table 1. **Descriptive Statistics**

Variables	n	Means	SD	Ranges	
Attitudes	770	65.4	12.21	30 -	98
Outcome evaluation	770	12.4	2.52	4 -	16
Normative belief	770	17.1	3.53	6 -	24
Motivation to comply	770	9.1	2.41	4 -	16
Household work ability	770	12.7	3.03	5 -	20
Gender ideology	770	11.6	2.72	5 -	20
Intention to do household work	770	24.3	5.45	8 -	32
Participation in househokd work	770	23.3	5.10	8 -	32

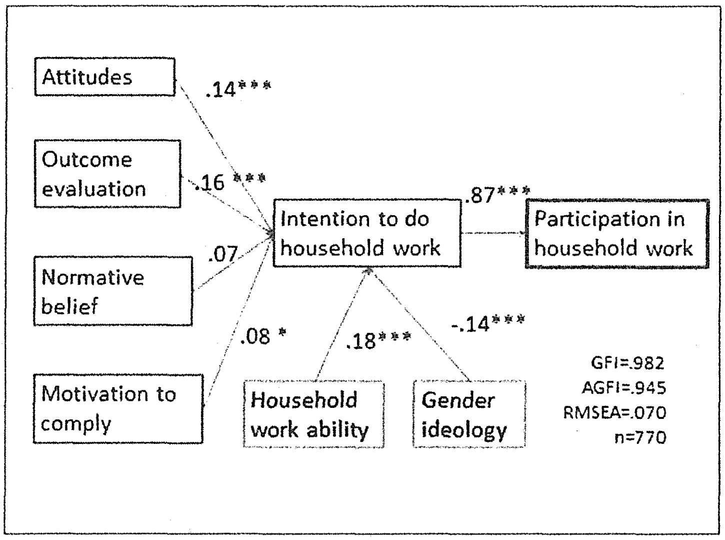


***Figure 1.* Factors affecting the intention of doing household work**

Note. 1) "Attitude," "Outcome valuation," "Normative belief," and "Motivation to comply" are original concepts of TRA.
2) *** p < .001, ** p < .01, * p < .05